

## ＜秋まき小麦の栽培＞

### 1 追肥について

幼穂形成期、止葉期の目標茎数時の窒素施肥量は下表のとおりです。

ただし、倒伏の危険がある茎数の場合は追肥を控えましょう。

茎数が倒伏の危険を大きく超える時は、次の項目にある倒伏軽減剤の使用を検討しましょう。

時期	幼穂形成期	止葉期
窒素施肥量(kg/10a)	4	4
目標茎数(本/㎡)	1,500	1,000
倒伏の危険(本/㎡)	1,700	1,200



注) 原稿作成時点(4月13日)での見込みです。

その後の気象の推移によっては変更となる場合がありますので、ファクスで送信される最新の営農技術情報にご注意下さい。

### 2 倒伏軽減剤について

倒伏の危険がある場合は早めに！幼穂形成期から対応が可能です。

薬剤	使用時期	10a 当り使用量	使用回数	注意事項
サイコセルPRO	幼穂形成期	150～200mL	1	水 100L
	出穂前 10～20 日	200～300mL	1	水 100L、草丈 40～60cm
エスレル10	止葉期～出穂始期	200～333mL	1	水 100L
カルタイムフロアブル	止葉期～出穂始	150～200mL	1	水 100L

### 3 雑草と除草剤について

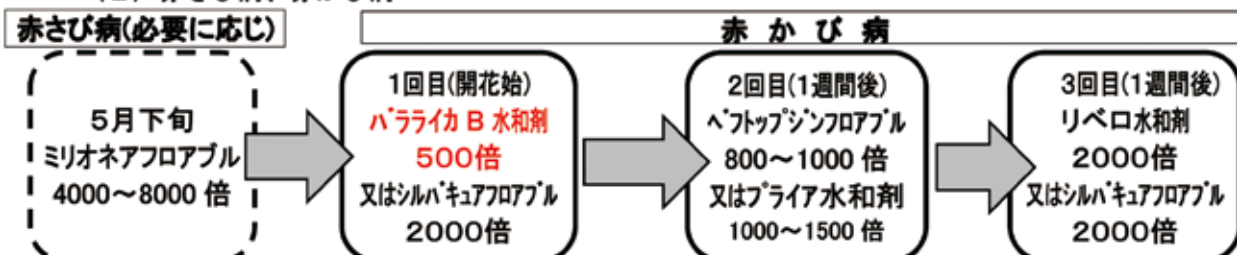
除草剤	主な対象雑草	使用時期	10a 当り使用量	使用回数	注意事項
エコパートフロアブル	シロサ <sup>+</sup> 、タテ <sup>+</sup> 類、ハコベ <sup>+</sup>	雑草発生始期 (止葉抽出前まで) (収穫 45 日前まで)	50～75 mL	2	展着剤は加養しない、葉害の恐れがあるので、小麦止葉抽出前までに散布する。
バサグラン液剤	タテ <sup>+</sup> 類、ハコベ <sup>+</sup> 、ナス <sup>+</sup> ナ、スカシコ <sup>+</sup> ホウ <sup>+</sup> 等	麦の幼穂形成期 (春生えのみ) (収穫 45 日前まで)	100～200 mL	1	散布後の降雨は効果が劣るので、好天の続く見込みの時期に散布する。
MCPソーダ塩	シロサ <sup>+</sup> 、ハコベ <sup>+</sup> 、ナス <sup>+</sup> ナ、スカシコ <sup>+</sup> ホウ <sup>+</sup> 等	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前まで)	200～300 g	1	日中の気温が 20℃以上の好天日を選び散布する。
ハーモニー7 5DF水和剤	シロサ <sup>+</sup> 、タテ <sup>+</sup> 類、ハコベ <sup>+</sup> 等 <sup>(注)</sup>	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前まで)	7.5～10 g	1	使用後は必ず散布器具を専用の洗浄剤でよく洗浄する。

注) ハーモニーはイカリに有効。ギンギン類(10a 当たり使用量 3～5g)にも効果があります。

### 4 病虫害防除について

(1) 眼紋病 5月上旬(幼穂形成期) カンタスドライフロアブル 1500倍

(2) 赤さび病、赤かび病



(3) アブラムシ類 6月中旬～7月中旬 エルサン乳剤 1000倍

ペイオフME液剤 2000倍

※農薬の使用前には、必ずラベルを確認し、正しく使用しましょう。